

はリンク

はWAMNETの事業者情報にリンク

事業所名

あんきな家

日付 平成 20年 3月 31日
特定非営利活動法人

評価機関名

ライフサポート

評価調査員 在宅介護経験18年

評価調査員 在宅介護経験6年

自主評価結果を見る

評価項目の内容を見る

事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります!)

1. 評価結果の概要

講評

全体を通して(特に良いと思われる点など)

久しぶりに訪問すると、懐かしい顔があった。まず小型犬ルビーが大歓迎してくれた。見覚えのある利用者が前と同じように笑顔で迎えてくれた。孫や地域の中学生たちの作品などを貼った自慢の居室を見せてくれる。暖かな日差しを受けたりリビングルームで庭を眺めてのんびりしている人や、料理の本を職員と一緒に見て献立の話をしている人もいる。二階にもリビングルームがあり、二階に居室のある女性たちがおしゃべりしている。「みんな友達よ。ここは楽しいし安心よ。階段の上り下りは平気よ。」百歳近い女性たちが自分の気持ちを教えてくれる。おしゃべりの中にうまく入れない人の傍には、職員と一緒に座ってゆっくり話し相手をしている。自室で1人で気まままを楽しんでいた男性も、食事や入浴をきっかけに、女性たちのおしゃべりに加わっている。

これらの光景は特別に何かをしているわけではないけれど、人と人が安心して楽しく過ごせているという温かい馴染みのようなものを感じ、3年余り前に感じたのと同じ雰囲気である。以前からの人もいるが利用者も職員もかなり入れ替わっている。にもかかわらず以前と同じような穏やかな雰囲気を保つことができているのは、このホーム独自のケア方針の結果のように思う。

まず、一階と二階に分かれた小さな単位での人間関係ができており、それを基本にして馴染みの関係ができています。そして、職員が利用者一人ひとりの特徴を生かす支援やできないことを支える支援を行うことにより、利用者と職員の間関係だけでなく、利用者同士がお互いに支えあうという微笑ましい活気のある生活が見えるのだと思う。

このホームの特徴として、法人に支えられている点もある。職員が法人内で十分な研修を受けられることや隣接する諸施設の協力を得ることができる点である。入院が必要な人や状態が悪くなった人を受け入れる施設があり、ホームのレベル維持にも役立っていると思う。法人内各施設との交流は、地理的に住民との交流が難しいホームにとって役立っている。隣接するホームと協力して運営推進会議を一緒に開催しているので、ホーム同士の意思疎通や情報交換など新たな交流に役立っている。

特に改善の余地があると思われる点

広い法人の敷地内にあるという地理的条件のために地域住民との交流が難しいのが、このホームだけでなく隣接するグループホーム全体での問題となっている。4つのホームが合同で運営推進会議を行っているが、近隣町内や学校などの協力も得られるような策も考えて、少しでも地域住民との交流ができるようにしていきたい。

家族参加の行事は利用者と家族が共に過ごせるいい機会なので続けてほしいが、計画の段階から家族や利用者によく話し合い、時期や都合に合意を得て実施していけばよいと思う。行事を利用して家族同士が話し合う機会ができれば、さらによいと思う。

2. 評価結果 (詳細)

I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有		
記述項目	グループホームとしてめざしているものは何か		
記述回答	<p>1. 自主評価について…：法人としては有名であるが、グループホーム個々には地域への広報が十分ではなく、運営推進会議を通して理解を広めようとしている。</p> <p>2. 全体を通して…：「利用者の困っていることに気を配り、家庭での生活に近づきたい」という目標の通り、家庭のような4～5人という少ない人数を単位として生活していることで、より密接な人間関係ができ、家族のように仲間同士での支えあいが生きている。お互い言いたいことを言ったり、相手を気遣ったりする関係ができている、利用者にとってとても居心地のいい場所となっている。そのような環境の下支えを行うために利用者の性格や能力を十分把握して部屋割りをして、見守りや声かけなどその時々に応じた支援をしている。まるで利用者自身が自立して生活を楽しむことができていると思えるような、裏方の気配りの支援をしている。</p>		

II 生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り		
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり		
4	建物の外回りや空間の活用		
5	場所間違い等の防止策		
記述項目	入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か		
記述回答	<p>1. 自主評価について…：注目すべき改善点は特にないが、ケアハウスの住人の協力も得て、花や野菜の栽培ができている。</p> <p>2. 全体を通して…：一階と二階のそれぞれのリビングルームで団楽ができ、少人数でのより親しい人間関係ができるので、利用者は安心して暮らしている。二階の利用者はエレベーターを使わず毎日階段を使い、体力維持に努めている。居室にトイレと洗面台があり、自由気ままに使用できる。ベランダや庭でお茶やバーベキューを楽しみ、花や野菜も植えている。法人敷地内の散歩コースは近隣ホーム利用者との出会いの場ともなる。生活の中に環境を十分に活かしている。</p>		

III ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映		
7	個別の記録		
8	確実な申し送り・情報伝達		
9	チームケアのための会議		
10	入居者一人ひとりの尊重		
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ		
12	入居者のペースの尊重		
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援		
14	一人のできることにへの配慮		
15	入居者一人ひとりに合わせた調理方法・盛り付けの工夫		
16	食事を楽しむことのできる支援		
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援		

III ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮		
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援		
20	プライドを大切にした整容の支援		
21	安眠の支援		
22	金銭管理と買い物の支援		
23	認知症の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保		
24	身体機能の維持		
25	トラブルへの対応		
26	口腔内の清潔保持		
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応		
28	服薬の支援		
29	ホームに閉じこもらない生活の支援		
30	家族の訪問支援		
記述項目	一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か		
記述回答	<p>1. 自主評価について…：ホームとしてさらなる向上を目指したいと色々な面を改良していくよう取り組んでいる。</p> <p>2. 全体を通して…：利用者の経歴や能力・身体面・精神面の状態を詳しく捉えることにより、その人に必要な支援が何かを十分に検討している。利用者が自分で楽しんで何かに取り組んだりすることができるように、職員は環境作りや気持ちの面で支えている。利用者の性格や能力を十分考慮した部屋割りをすることで、親しい人間関係を作り、利用者同士の支えあいを生み出している。また、利用者が取り組んでいることをしっかりほめて、意欲を盛り上げている。することがわからない人や仲間に入れない人には、傍に寄り添って一緒に本を読んだり話し相手をしたりしている。これからのケアが、利用者にとって心の安定をもたらしている。</p> <p>職員は利用者に接する時間を多く取りたいので、記録は必要最小限にしているが、精神面の変化はしっかり捉えた記録となっている。</p>		

IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映		
32	災害対策		
33	家族の意見や要望を引き出す働きかけ		
34	家族への日常の様子に関する情報提供		
35	運営推進会議を活かした取組		
36	地域との連携と交流促進		
37	ホーム機能の地域への還元		
記述項目	サービスの質の向上に向け、日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か		
記述回答	<p>1. 自主評価について…：地域との関わりについて運営推進会議で取り組んでいるが、この機会を活用して少しでも地域との交流ができることを期待したい。</p> <p>2. 全体を通して…：法人の研修もよくあり、職員はケアの質の向上に意欲的で、よく話し合っケアに取り組んでいる。家族との連携として、たよりの発送や家族参加行事などに取り組んでいるが、家族や利用者の意向を十分取り入れるとさらにうまく進められるのではないかと思う。地域との交流は運営推進会議を手始めに取り組んでいるが、地理的条件もありまだ十分とはいえない。ホーム機能の還元としても多くの研修生の受け入れはしているが、地域の人への貢献はホームの単体でなく、法人全体として考えていって欲しい。</p>		